

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル⑥

- 女性/20歳
- 職業/年次：大学2年(文)
- 居住エリア：板橋区
- 居住形態：一人暮らし
- 奨学金：あり
- 2026年GWの計画：国内：福岡（推し活遠征）/予算：10～12万
- 2026年夏休みの計画：なし（地元へ帰省）

<結果サマリー>

「給油」としての推し活遠征：将来への不安を今この瞬間の熱狂で上書きするため、日常を削り聖域の資金を捻出する旅

1. 導入

根拠：板橋区で一人暮らしをし、月8～9万円のバイト代と奨学金で生活。物価高の影響で「外に出るとお金を使う」と外出を控え、自宅での「推し活」を生活の軸としている。

推論：経済的な余裕のなさを自覚しつつも、単なる節約生活ではなく、自身の精神的充足に直結する対象へ全リソースを集中させるための「選択的待機」の状態にある。

FD：日々の生活は「推し活」を維持するための基盤であり、それ以外の消費（日常の交際や食）は、目的達成を阻害するノイズとして極限まで削ぎ落とされている。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

根拠：GWの福岡遠征に1.5ヶ月分の収入に相当する12万円を投じる一方、夏休みは「生活の立て直し」として0円帰省を選択。遠征ではLCCや安宿でコストを削るが、ライブを100%楽しむための「身体的コンディション」と「最新グッズによる武装」には一切妥協しない。

推論：2025年と比較し「なんとなくの旅行」を完全に排除。友人との同行においても、互いの経済状況と優先順位を尊重し、不要な同調を避けるドライで合理的な関係性を構築している。

FD：旅行を「余暇」ではなく、日常の欠乏を埋めるための「生存に不可欠な投資（儀式）」と定義。そのための数万円は、1食100円の Pasta 生活という痛みを伴う我慢によって捻出されている。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

根拠：「デジタル旅行で十分」と断じ、実体験の価値を「推し」に限定。将来の奨学金返済や不透明な社会情勢に対し、「自立して推し活を続けられること」を唯一の現実的な目標として掲げている。

推論：将来への希望を抱くことが困難な社会背景の中、不確かな「未来の安心」よりも、確実に手に入る「今の熱狂」に賭けることで、自身のアイデンティティと自由を担保している。

FD：制約が強まるほど、旅行は「目的特化型」へ先鋭化する。彼女にとっての旅行とは、社会的な閉塞感から一時的に脱獄し、自分が自分であることを確認するための「給油」そのものである。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

根拠：物価高や奨学金という足元の重石を直視しながらも、Number_i への遠征には一切の迷いがない。将来の夢を問われても「推し活を続けられる収入」と答え、自分の幸せの範囲を明確に限定している。

推論：全方位的な幸福を諦め、特定の領域にのみ「貴族的な消費」を行うことで、格差や制約だらけの現実との整合性を取っている。内面には「これだけは譲らない」という強固な一線があり、それが彼女を絶望から繋ぎ止めている。

FD：2026年の20代にとって、旅行はもはや「観光」というレジャーではない。それは、過酷な日常を生き抜くための「エネルギー調達」であり、徹底的な取捨選択の末に残った、人生最後の聖域である。

1. 導入

【インタビュアー】 こんにちは。今日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今から1時間ほど、日々の生活のことや、お休みの日の過ごし方などについて、ざっくりお話を伺えればと思っています。まずは、今どのような毎日を過ごされているか、お仕事や学校のこと、お住まいのことなどから伺えますか？

【対象者】 あ、はい。よろしくお願いします。えっと、今は大学2年生で、文学部に通っています。住んでいるのは板橋区で、大学に入った時から一人暮らしをしています。毎日は……そうですね、基本は大学の講義に行って、そのあとバイトに行くっていうのが週に3、4回くらい。結構カツカツというか、予定は詰まってるほうだと思います。

【インタビュアー】 大学とバイトで予定が詰まっているとのことですが、普段の休日はどのように過ごされていることが多いですか？

【対象者】 休日は、バイトが入ってなければ、基本的には家でゆっくりしてるか、あとは「推し」の動画を見たり、SNSで情報をチェックしたりしてる人が多いです。たまに友達と会ってカフェに行ったりもしますが、最近は物価も高いし、外に出るとどうしてもお金を使っちゃうので……用事がない限りは家でダラダラしてるのが一番落ち着きますね。

【インタビュアー】 最近ハマっていることや、ご自身の中で「これには熱中している」というものはありますか？

【対象者】 それはもう、完全に「推し活」ですね。特定のアイドルグループを追いかけていて、その遠征のために生きてる、みたいなのがあります。バイト代も、生活費以外はほとんどそっちに消えていく感じです。

【インタビュアー】 「そのために生きてる」と言い切れるほどなんですね。その推し活についても後ほど詳しく伺いたいのですが、今の生活全体を振り返ってみて、ご自身ではどのように感じていらっしゃいますか？

【対象者】 うーん……正直、余裕はないなって思います。一人暮らしの家賃とか光熱費も上がってるし、奨学金も借りてるので、将来のことを考えると「今、こんなにお金を使っていいのかな」って不安になることもあります。でも、今しかできないこともあるし……っていう。ギリギリのバランスで何とかやってる感じです。

【インタビュアー】 ちなみに、アルバイトは何をされているのでしょうか？また、差し支えなければ熱中されているアイドルグループがどなたなのかも教えていただけますか？

【対象者】 バイトは、近くのドラッグストアでレジと品出しをしています。時給が少し上がったんですけど、その分、社保の扶養枠とかも気にしなきゃいけなくて……。結局、入れるシフトを調整しながら、月8万から9万くらいになるように働いています。

推しは……「Number_i」です。元々ずっと好きだったんですけど、最近の海外での活躍とか見ると、もう目が離せなくて。彼らの活動を追うのが、今の私の生活の軸になってますね。

【インタビュアー】 ドラッグストアでのバイトを月8~9万ほどに調整しながら、Number_iの活動を追う生活が軸になっている、ということですね。それでは、ここからは具体的な連休の予定について伺わせてください。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 今年（2026年）のゴールデンウィークですが、何かお出かけなどの計画は立てられていますか？

【対象者】 はい、GWは福岡に行きます。Number_iのライブがあるんです。2泊3日の予定で、もう飛行機もホテルも押さえました。

【インタビュアー】 福岡への遠征ですね。具体的に、どのようなスケジュールや内容を予定されているか教えていただけますか？

【対象者】 基本はライブがメインなので、1日目と2日目の夜の公演に入ります。移動は、ホントは新幹線がいいんですけど高いので、成田からLCCのジェットスターで行きます。宿は、博多駅の近くはもう高すぎて手が出ななかったので、少し離れたところにある、古めのビジネスホテルを友達とシェアして泊まることにしました。

【インタビュアー】 「博多駅の近くは高すぎる」とのことですが、今回の福岡遠征で使う交通手段や宿、現地での食事なども含めて、トータルでどのくらいの予算を組まれているのでしょうか。

【対象者】 えっと……全部合わせると、だいたい10万円くらいになっちゃうかなと思ってます。チケット代だけで2公演分で3万弱いくし、LCCとはいえGWだから往復で3万5千円くらいしました。宿が2泊で1万5千円。残りが現地でのご飯代とか、物販のグッズ代ですね。

【インタビュアー】 10万円。月々のバイト代が8~9万円とおっしゃっていましたが、その金額を今回の遠征に充てることについては、どのように考えて決めたんですか？

【対象者】 正直、1ヶ月の給料が全部飛ぶのはキツイです。でも、このために働いてるようなものなので……。3ヶ月前から食費を削ったり、サブスクをいくつか解約したりして、少しずつ「遠征貯金」をしてきました。これに行かないと、何のために大学行ってバイトしてるのか分からなくなっちゃう気がして。

【インタビュアー】 「これに行かないと、何のために頑張っているか分からない」という感覚なんですね。今回の福岡での滞在についてですが、移動や宿泊、現地での過ごし方の中で、特に「ここだけは譲れない」「重視した」というポイントはどこですか？

【対象者】 重視したのは……「とにかく現場（ライブ）に確実に、一番いい状態でたどり着くこと」です。だから、移動手段を削ってでも、ライブのチケットは絶対だし、公式グッズも妥協したくない。逆に宿は、本当に寝るだけなので、狭くても古くても全然いいんです。あと、福岡はご飯が美味しいって聞きますけど、有名な屋台とかお店に行く余裕はないかな……コンビニとか、安いチェーン店で済ませるつもりです。

【インタビュアー】 美味しいお店よりも、ライブやグッズを優先されるんですね。逆に、今回の計画を立てる中で、「本当はこうしたかったけど、我慢した」「諦めた」ということは何かありますか？

【対象者】 本当は……羽田からJALとかで行きたかったです。成田まで行くの、板橋からだといし、時間も交通費もかかるので。あと、本当は福岡でもう1泊してゆっくり観光したかったんですけど、宿泊費が跳ね上がるので諦めました。ライブが終わったら、余韻に浸る間もなく、すぐ帰る準備をしなきゃいけないのがちょっと寂しいですね。

【インタビュアー】 GWの福岡遠征についてはよくわかりました。ありがとうございます。では、その後の「夏休み」については、何か現時点で考えている計画はありますか？

【対象者】 夏休みは……今のところ、旅行の予定はないです。実家の宮城に帰省するだけです。本当は友達とどこか行きたいねって話も出たんですけど、結局「お金ないよね」ってなって、具体的な話にはなりませんでした。

【インタビュアー】 夏休みは「帰省のみ」とのことですが、その判断はどのようにされたのでしょうか。

【対象者】 やっぱり、GWの遠征で10万使うのが大きくて。夏休みにも旅行に行くとなると、また同じくらいかそれ以上のバイト代を貯めなきゃいけないじゃないですか。でも、後期にはまた別のツアーがあるかもしれないし、冬にはカウコン（カウントダウンコンサート）があるかもしれないって思うと、夏は「温存」しておかないと、一番大事な時に動けなくなっちゃうので。

【インタビュアー】 「一番大事な時に動けなくなるのを避けるための温存」なんですね。帰省の際の移動手段や、現地での過ごし方はどうされる予定ですか？

【対象者】 帰省は、一番安い高速バスです。時間はかかりますけど、新幹線の半額以下で帰れるので。実家に帰れば食費もかからないし、親から「米持っていきな」とか言ってもらえるので、私にとっては旅行っていうよりは「生活の立て直し」みたいな感覚に近いかもしれません。

【インタビュアー】 「生活の立て直し」という言葉がありましたが、GWに大きな出費をして、夏休みは抑えるというバランスについては、意識的に考えたことですか？

【対象者】 はい。年間で使える「自由なお金」の総額は決まっちゃってるので。月8~9万のバイト代から、家賃とか光熱費とか、あと奨学金の返済（※注：在学中のため利息や将来の返済に向けた貯蓄意識として）を考えると、自由に動かせるのって月に3~4万くらいなんです。だから、GWに10万使うなら、その前後の月は一切遊ばないとか、夏休みは0円で過ごすとか、そうやって辻褃を合わせないと破綻しちゃうんです。

【インタビュアー】 かなりシビアに管理されているんですね。ちなみに、去年（2025年）と比べて、こうした旅行やお金の使い方について、意識的に変えたことや「変えざるを得なかったこと」は何かありますか？

【対象者】 去年よりずっと「削るところ」が明確になった気がします。2025年の時は、まだ「せっかくの休みだし、ちょっといいカフェ行こう」とか、ついでに観光も……っていう余裕が少しはあったんですけど。今は、物価が本当に高くて、コンビニで飲み物買うのすら躊躇するレベルじゃないですか。だから「推しに直接会える場」以外には、本当にお金を使いたくない。「なんとなくの旅行」は、今の私には贅沢すぎるというか、もったいなくてできないです。

【インタビュアー】 「なんとなくの旅行」はもったいない、ですか。その「もったいない」と感じる基準を、もう少し詳しく教えていただけますか？

【対象者】 うーん……。例えば、ただ「綺麗な景色を見る」とか「美味しいものを食べる」だけの旅行に数万円払うなら、その分を次のライブのグッズ代とか、少しでも良席を狙うための軍資金に回したい、と思っちゃうんです。景色や食事はSNSで見ればある程度満足できるし、一人暮らしで自炊してれば「食べること」への優先順位って下がっちゃうので。自分にとって「これがないと生きていけ

ない」っていうレベルの体験じゃないと、お金を出す勇気が出ないですね。

【インタビュアー】先ほど「とにかく現場（ライブ）に確実に、一番いい状態でたどり着くこと」を重視されているとおっしゃっていましたが、具体的にどのような状態になれば、ご自身の中で「一番いい状態」と言えるのでしょうか？

【対象者】うーん……。一番は、体力的にも精神的にも「Number_iに集中できる状態」っていうことです。例えば、遠征費をケチりすぎて、夜行バスで一睡もできずに会場に行くと、ライブ中に眠くなったり足がむくんで辛かったりして、彼らのパフォーマンスを100%楽しめないじゃないですか。それって、チケット代をドブに捨ててるのと同じだなって思っちゃうんです。

【インタビュアー】「チケット代をドブに捨てているのと同じ」ですか。そうすると、先ほどおっしゃっていたLCCでの移動や、古めのホテルに友人とシェアして泊まることは、その「いい状態」を保つ上ではプラスになるんでしょうか。

【対象者】そうですね。夜行バスよりは、LCCの方が拘束時間が短いし、ちゃんと横になって寝られる場所（ホテル）がある。そこは「最低限の投資」だと思ってます。あとは、髪型とかメイクも、崩れた状態じゃなくて、自分の中で「推しに会っても恥ずかしくない」って思えるレベルまでは整えておきたい。だから、安くても「鏡がちゃんとあって、シャワーが使える個室」は譲れなかったです。

【インタビュアー】なるほど。移動の疲れを最小限にしつつ、身だしなみを整えられる環境は確保するということですね。その「100%楽しむための最低限の投資」というラインは、ご自身の中でどのように決めているんですか？

【対象者】たぶん、「ライブの瞬間に後悔するかどうか」が基準だと思います。「あのとき数千円ケチったから、今こんなに足が痛いんだ」とか「メイク直せなかったな」ってライブ中に一瞬でも考えちゃうのが、一番もったいないので。その数千円を捻出するために、普通の昼ごはんをコンビニおにぎり1個で我慢するのは全然平気なんです。その我慢はライブ中には思い出さないですから。

【インタビュアー】「公式グッズも妥協したくない」というお話でしたが、今回の福岡遠征で、これだけは絶対に手に入れたいという具体的なアイテムがあるのでしょうか？

【対象者】あ、はい。まずはパンフレットと、あと「ペンライト」ですね。ペンライトはライブ中に使うものなので絶対なんですけど、最近是一个5,000円くらいしたりして……。それから、今回のツアー限定のTシャツと、推しの個人のうちわ、アクリルスタンドは絶対に使いたいです。

【インタビュアー】ペンライトにTシャツ、うちわ、アクスタ……。それらを全部揃えとなると、結構な金額になりそうですね。

【対象者】そうなんです。たぶん、グッズだけで2万円から、下手したら3万円近くいくかもしれません。でも、さっき言った「一番いい状態」でライブを楽しむためには、やっぱりその時の最新のグッズを身につけて、推しを応援したいんですよ。去年のを使い回すんじゃなくて、「今のNumber_i」に合わせた自分でいたいというか。

【インタビュアー】「今の彼らに合わせた自分でいたい」という感覚なんですね。ちなみに、それだけの金額をグッズに使うとなると、現地での他の出費、例えば先ほどおっしゃっていた食事や、あるいは移動中の飲み物代などに影響は出そうですね？

【対象者】めちゃくちゃ出ます（苦笑）。だから、福岡に行く日は、家から水筒にお茶を入れて持っていくし、現地でも基本はコンビニのおにぎりとかパンで済ませます。「福岡まで行ってコンビニ飯

かよ」って友達に言われたこともありますけど、私にとっては「福岡の美味しいラーメン」よりも「推しの新しいアクスタ」の方が、圧倒的に価値があるんです。食べちゃえば終わりですけど、グッズは一生残るし、見るたびにライブの時のことを思い出せるので。

【インタビュアー】 今回の福岡遠征について、費用の内訳をもう少し正確に把握したいのですが、先ほどおっしゃっていた「10万円」というのは、チケット代やグッズ代もすべて含めた総額ということでしょうか？それとも、宿泊や交通費などのいわゆる「旅費」として10万円かかる、ということですか？

【対象者】 あ、すみません。10万円は「全部込み」の総額です。内訳をちゃんと思い出すと……チケットが2枚で3万弱、LCCの往復がGW価格で3万5千円、宿が2泊で1万5千円。これでだいたい8万ですよ。残りの2万がグッズ代と、現地での最低限の食費っていう計算です。……あ、でも、さっきグッズで2~3万欲しって言っちゃいましたね。そうすると、やっぱり10万じゃ足りなくて、11万か12万くらいにはなっちゃうかもしれません……。

【インタビュアー】 総額で11~12万円ほどになる可能性もある、ということですね。その金額は、バイト代の約1.5ヶ月分に相当するかと思いますが、生活費や将来の奨学金の返済などを考えると、この「プラスアルファの数万円」を捻出するのは、ご自身にとってどのような重みがありますか？

【対象者】 正直、めちゃくちゃ重いです。さっき「食費を削る」って言いましたけど、具体的には1食100円以下のパスタで1週間しのいだりとか、友達からの遊びの誘いを「課題が忙しい」って嘘ついて断ったりもしてます。そうしないと、この数万円が浮かないので。奨学金のことも、ふとした瞬間に「これ、いつか返さなきゃいけないんだよな」って頭をよぎるんですけど……。でも、今この瞬間のライブを逃したら、もう二度と同じステージは見られないじゃないですか。将来の借金（奨学金）への不安よりも、今の推しを見逃す後悔の方が、私にとっては怖いだと思います。

【インタビュアー】 「将来の不安よりも、今見逃す後悔の方が怖い」という感覚なんですね。そうまでして捻出したお金を「旅行」という形で使うことについて、ご自身ではどう捉えていますか？一般的な「観光旅行」とは少し違うようにも感じられますが。

【対象者】 そうですね。私にとってこれは「旅行」っていうキラキラした言葉とはちょっと違う気がします。観光地を巡ってリフレッシュするっていうよりは、自分のエネルギーを補給しに行く「儀式」みたいな……。だから、福岡らしいことを何もしなくても、ライブ会場とホテルの往復だけで12万払うことに、1ミリも後悔はないです。むしろ、それだけのお金を「自分のために、自分の好きなことだけに使える」ということが、今のギリギリの生活の中で唯一、自分が自由だって感じられる瞬間なのかもしれません。

【インタビュアー】 一緒に行くご予約のお友達についても教えてください。今回、宿泊もシェアされるとのことですが、そのお友達も、お金の使い方や遠征に対する考え方は似ているのでしょうか？現地での行動はずっとお二人で一緒ですか？

【対象者】 あ、はい。基本的には同じ熱量で推している子なので、考え方は似てますね。その子も一人暮らしで自炊頑張ってるので、「食費削ってでもグッズ」っていうところは一緒です。ただ、現地での行動は、実はライブ中と、その前後の移動以外は結構バラバラなんです。

【インタビュアー】 「ライブ以外はバラバラ」というのは、具体的にどういった過ごし方をされるんですか？

【対象者】例えば、ホテルで朝起きたあとも、私はギリギリまで寝ていたいし準備に時間をかけたいタイプなんですけど、その子は「せっかく福岡に来たから、少しでも聖地巡礼（推しゆかりの場所巡り）したい」って言って、朝早くから一人で出かけたりしてます。私はさっき言ったみたいに「ライブに体力を温存したい」ので、そこは無理に合わせないです。お互い、自分の一番納得できる形でお金と時間を使いたいというのがわかってるので、そこはすごくドライというか、自由ですね。

【インタビュアー】お互いの「納得感」を尊重されているんですね。食事なども別々にとることが多いのでしょうか？

【対象者】そうですね。夜、ライブが終わったあとは興奮してるので、コンビニで買ったものをホテルの部屋で一緒に食べながら語りますけど、それ以外は自由です。もし彼女が「どうしてもこのお店でラーメン食べたい」って言うても、私は「ごめん、私はアクスタにお金回したいからコンビニでいいや」ってはっきり言える関係です。今の時代、友達と旅行するからって、全部一緒にして相手に合わせるのって、経済的にも体力的にもしんどいじゃないですか。自分の「譲れないもの」がはっきりしてるからこそ、そこを邪魔し合わないのが、一緒に遠征できるコツかなって思ってます。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】今後のことについても伺わせてください。もし、お金や時間の制約がまったくないとしたら、今後やってみたい旅行などはありますか？

【対象者】うーん……。それなら、海外遠征に行ってみたいです。Number_i がコーチェラに出た時みたいに、海外のフェスとかで彼らを見るのが夢ですね。観光は二の次でいいので、現地の空気の中でパフォーマンスしてる彼らを、一番前で見たいです。

【インタビュアー】やはり「推し」が中心なんですね。一方で、最近は「青春 18 きっぷ」を使った長距離移動や、あるいは YouTube で絶景を見たり、イマーシブ型の疑似体験をしたりする「デジタル旅行」というものもありますが、そういったものについてはどう思われますか？

【対象者】「18 きっぷ」は、正直今の私には無理かなって思います。時間がかかりすぎるし、体力削ってまで移動そのものを楽しむっていう余裕がないので……。それなら、バイトを増やして飛行機代を稼ぐ方がマシだと思っちゃいます。デジタル旅行の方は……「あ、これで十分だな」って思うことがよくあります。

【インタビュアー】「デジタルで十分」というのは、具体的にどういう時にそう感じるんですか？

【対象者】例えば、SNS で流れてくる綺麗なホテルのルームツアーとか、海外のオシャレな街並みの動画とか。それを見て「いつか行きたい」とは思いますが、実際に行くとなると何十万もかかるじゃないですか。画面越しでも十分綺麗だし、それを見て「行った気分」になれるなら、浮いたお金をライブに回せるので。私にとって「自分の目で見なきゃいけないもの」って、推しのパフォーマンスだけなんですよね。それ以外の景色とかは、正直、高画質の映像で事足りちゃうというか。

【インタビュアー】景色などは映像でいいけれど、推しだけは生で見たい、と。では、改めて伺いますが、あなたにとって「旅行」とは一体どういうもの、あるいはどういう存在だと言えるのでしょうか。

【対象者】「生きるための給油」……ですかね。普段の生活は、正直かなり切り詰めてるし、バイトと大学の往復で、奨学金の不安もあって、息苦しい時もあります。でも、遠征って言う「旅行」があ

るから、そのために頑張れる。日常から抜け出して、一番好きなものに全エネルギーをぶつけるための、なくてはならない「儀式」みたいなものだと思います。

【インタビュアー】 「生きるための給油」であり「儀式」。今後、物価の上昇や社会保険料の負担増、そして将来の奨学金の返済といった経済的な制約は、さらに強まっていくことが予想されます。そうした中で、あなたの「旅行」はどうなっていくと思いますか？

【対象者】 もっと「極端」になっていく気がします。「なんとなく楽しそうだから行く」みたいな中途半端な旅行は、もう一生しないと思います。物価が上がれば上がるほど、一回の遠征の重みが増すから、今まで以上に食事を削ったり、普段の生活をストイックにしたりして、その一瞬に全てを注ぎ込む形になるんじゃないかな。「やりたいこと」は海外遠征ですけど、現実には「国内の遠征を死守するのが精一杯」っていう状態が続きそうです。

【インタビュアー】 その「理想と現実のギャップ」については、ご自身の中でどう捉えていますか？

【対象者】 ……悔しいですけど、仕方がないなって思ってます。親の世代みたいに「働けば普通に旅行に行ける」時代じゃないのは分かってるので。でも、たとえ制約が厳しくなっても、ライブのチケットだけは絶対に手放したくないです。どんなに生活が苦しくなっても、「推しに会う」という体験だけは、私の人生の中で絶対に譲れない、最後の一线なんだと思います。

【インタビュアー】 今のお話を聞いていると、やはり「推し」が生活のすべてにおいて最優先されていることが伝わってきます。一点伺いたいののですが、その「推しに会う」という目的を除いた、世間一般で言われるような「観光」や「リフレッシュ」のための旅行については、今はもうほとんど興味がない、と言い切れるくらいのお気持ちですか？ それとも、本当は「経済的な状況さえ許せば、普通の旅行も行きたい」というお気持ちがどこかにあるのでしょうか。

【対象者】 うーん……。そうですね、全く興味がないわけじゃないんです。「いいなあ」とは思います。SNSで友達が韓国で可愛いカフェ巡りをしていたり、綺麗なリゾートに行ってる写真を見ると、「私もお金があれば行きたいな」って一瞬は思います。

でも、今の私のリアルな生活——バイト代が月8~9万で、そこから家賃を払って、将来は奨学金を返さなきゃいけないっていう現実を横に置いて考えた時、その「一瞬のいいなあ」のために数万円払うかって言われると……やっぱり、そこまでの熱量はないです。

【インタビュアー】 「そこまでの熱量はない」というのは、具体的にどういう感覚ですか？

【対象者】 なんて言うか……今の私にとって、普通の旅行は「嗜好品」っていうか、「あってもなくても死なないもの」なんです。でも、推しに会うための遠征は、さっきも言いましたけど「給油」なんですよ。それがないと、明日からまた100円の pasta を食べて、ドラッグストアでレジを打つ毎日を耐えられない。

だから、「状況が許せば行きたい」というよりは、「状況が奇跡的に良くなって、かつ推しへの活動資金が完璧に確保できている」という前提がない限り、普通の旅行が私の選択肢に入ってくることはないと思います。今の時代、何かを全力で守るためには、他のことを「興味ない」って自分に言い聞かせて切り捨てないと、心が持たないっていうのもあるかもしれません。

【インタビュアー】 ご自身の生活の中で「推し」がどれほど大きな存在か、よく分かりました。ここで、少しだけ旅行のお話から離れてしまうのですが、一つ伺わせてください。今、推しを応援することを最優先にされていますが、それ以外で、あなたご自身がやってみたいことや目標、あるいはご自

身の将来については、今どのように考えていらっしゃいますか？

【対象者】 ああ……将来、ですか。正直に言うと、あんまり先のことは考えすぎないようにしています。というか、考えられないっていうのが本音かもしれません。大学の学部も文学部ですし、具体的に「この職種になりたい」という強い希望があるわけでもなくて。今はとにかく、目の前の単位を落とさないことと、奨学金という借金を背負いながら、どうにか社会人になってそれを返していくんだらうな、っていうぼんやりした不安があるだけです。

【インタビュアー】 「ぼんやりした不安がある」という感覚を、もう少し詳しく言葉にできますか？

【対象者】 なんて言うか……今の20代って、普通に就職して普通に働いても、どんどん物価は上がるし引かれる税金も増える一方で、「将来に希望を持って」と言われる方が酷な気がするんです。だから、私にとっての「自分自身の目標」って、今は「自立して、誰にも迷惑をかけずに自分の推し活を続けられるだけの収入を得ること」なんです。それ以外に、例えば起業したいとか、何かを成し遂げたいみたいな野心は、今のところ全然ないですね。

【インタビュアー】 「推し活を続けられるだけの自立」が、今の目標ということですね。

【対象者】 はい。将来の大きな夢とかよりも、次のツアーに行ける自分であり続けること。それが私の「自分自身の幸せ」に直結してるんです。だから、将来の不安に押しつぶされるくらいなら、今この瞬間に推しからエネルギーをもらって、「明日もバイト頑張ろう」と思える状態を維持することの方が、今の私にとってはよっぽど現実的で、大事なことなんだと思います。

【インタビュアー】 本日は長時間にわたり、日々の生活や旅行、そして大切にされている価値観について詳しくお聞かせいただき、本当にありがとうございました。お伺いしたお話は、今後の参考にさせていただきます。

【対象者】 あ、はい。こちらこそ、ありがとうございました。自分の今の生活を改めて言葉にしてみる機会なんてなかったので、なんだか不思議な感じでした。お疲れ様でした。